

第 99 回

2016 年 10 月～12 月期

「景況調査」



福岡県中小企業家同友会

目次

1 回答者の属性	3
2 全体の景況判断	5
(ア) 全体の景況感	5
(イ) 各項目の状況	7
3 主要指標のクロス分析	12
(ア) 景況感別の動向	12
(イ) 業種別の動向	12
(ウ) 従業員規模別の動向	13
(エ) 本社地区別の動向	13
4 経営上の問題点	14
5 その他の調査項目	17
(ア) 資金繰り	17
(イ) 冬の賞与予定	17
6 経営指針書について	19
7 自由回答項目	21
(ア) 景況理由	21

1 回答者の属性

このアンケートを回答したのはどのような人々か

サービス業が過半数、特に事業所向けは全体の 1/3 以上を占める。従業員規模は 0~5 名が最も多く、20 名以下で 7 割以上。本社が福岡地区にあるのが 7 割。

第 99 回:調査時期:平成 28 年 12 月 1 日~12 月 28 日

回収数:382 件

方法:edoyu アンケートシステム(Web)、及び FAX

回答方法		第98回		第99回		構成比増減
No.	カテゴリ	件数	割合%	件数	割合%	
1	WEB	364	81.1	314	82.2	1.1
2	FAX	85	18.9	68	17.8	-1.1
	サンプル数(%ベース)	449	449	382	382	-67
1.業種		第98回		第99回		構成比増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	製造業(生産財)	32	7.2	24	6.3	-0.9
2	製造業(消費財)	36	8.1	30	7.9	-0.2
3	建設業(建築)	42	9.4	31	8.2	-1.2
4	建設業(土木)	12	2.7	12	3.2	0.5
5	建設業(設備)	25	5.6	26	6.8	1.2
6	商業・流通業	53	11.9	48	12.6	0.7
7	サービス業(対事業所)	166	37.2	133	35	-2.2
8	サービス業(対個人)	80	17.9	76	20	2.1
	不明	3	0	2	0	
	サンプル数(%ベース)	449	446	382	380	-66
2.従業員数		第98回		第99回		構成比増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	0名~5名	169	37.6	130	34	-3.6
2	6名~10名	86	19.2	97	25.4	6.2
3	11名~20名	75	16.7	57	14.9	-1.8
4	21名~30名	37	8.2	33	8.6	0.4
5	31名~50名	32	7.1	24	6.3	-0.8
6	51名~100名	29	6.5	23	6	-0.5
7	100名以上	21	4.7	18	4.7	0
	不明	0	0	0	0	0
	サンプル数(%ベース)	449	449	382	382	-67

3.本社所在地			第98回		第99回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%	構成比増減
1	福岡地区	329	73.3		282	73.8	0.5
2	北九州地区	38	8.5		32	8.4	-0.1
3	筑豊地区	36	8		35	9.2	1.2
4	県南(筑後)地区	33	7.3		24	6.3	-1
5	福岡県外	13	2.9		9	2.4	-0.5
	不明	0	0		0	0	0
	サンプル数(%ベース)	449	449		382	382	-67
4.所属支部			第98回		第99回		
No.	支部名	件数	(除不)%		件数	(除不)%	構成比増減
1	東支部	55	12.3		37	9.8	-2.5
2	福岡支部	38	8.5		22	5.8	-2.7
3	博多支部	33	7.4		38	10	2.6
4	中央支部	25	5.6		21	5.5	-0.1
5	西支部	26	5.8		23	6.1	0.3
6	南支部	21	4.7		23	6.1	1.4
7	筑紫支部	30	6.7		23	6.1	-0.6
8	福友支部	51	11.4		56	14.8	3.4
9	青年支部	21	4.7		17	4.5	-0.2
10	玄海支部	14	3.1		16	4.2	1.1
11	かすや支部	19	4.3		12	3.2	-1.7
12	糸島支部	10	2.2		8	2.1	-0.6
13	北九州支部	22	4.9		16	4.2	0.4
14	ひびき支部	12	2.7		12	3.2	-1.3
15	筑豊支部	17	3.8		14	3.7	1
16	嘉飯支部	20	4.5		18	4.7	2.5
17	久留米支部	12	2.7		12	3.2	2.3
18	大牟田支部	10	2.2		6	1.6	-2.7
19	有明支部	4	0.9		3	0.8	
20	りょうちく支部	6	1.3		2	0.5	-1.7
	不明	3	0		3	0	0
	サンプル数(%ベース)	449	446		382	379	-67

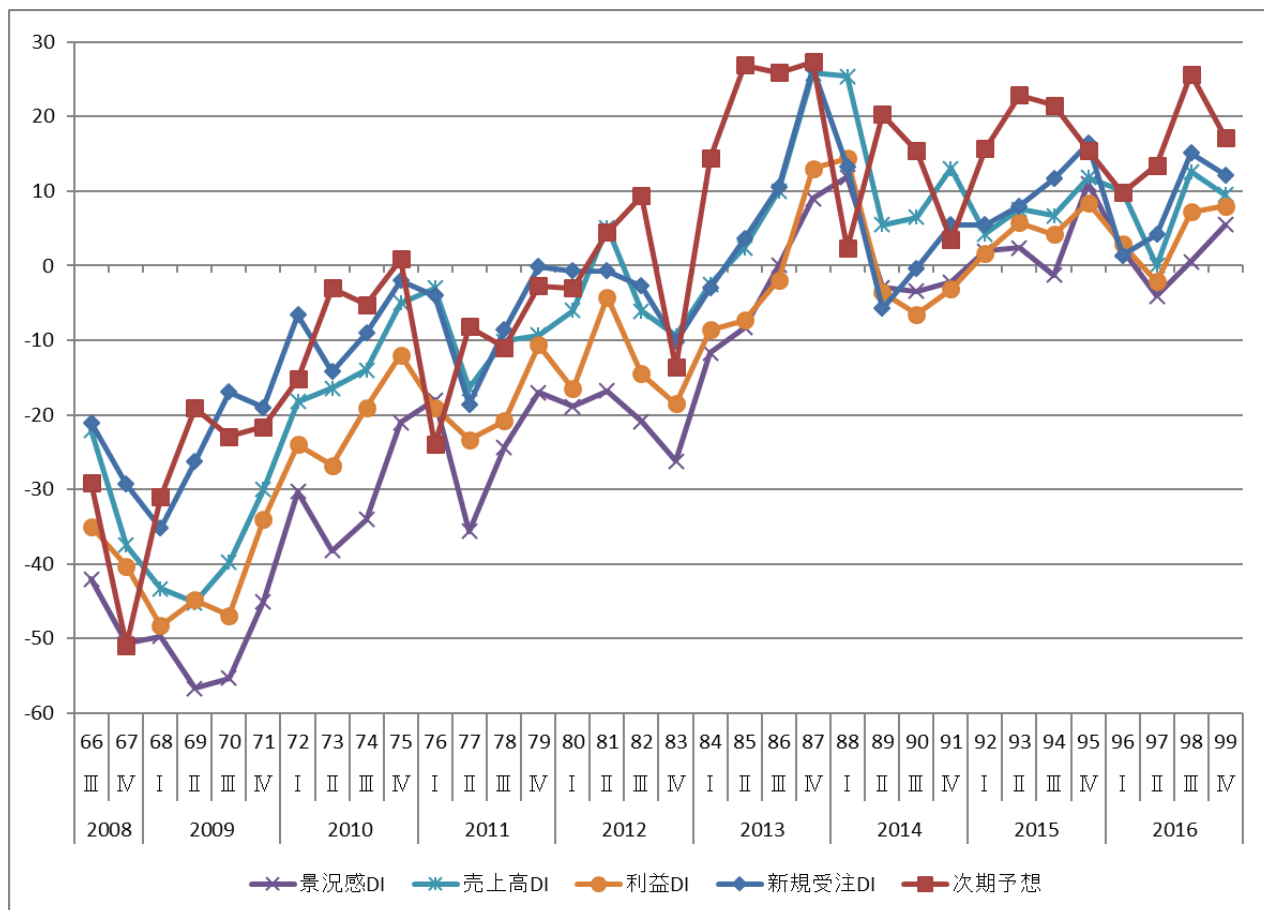
2 全体の景況判断

(ア) 全体の景況感

景況感各種 DI(よいー悪い)の状況はどうなっているか

前回は二期連続悪化から反転の形ですべての指標が改善していたが、今回は景況感は改善したものの、利益はほぼ横ばい、売上や新規受注、次期予想はやや悪化となっている。

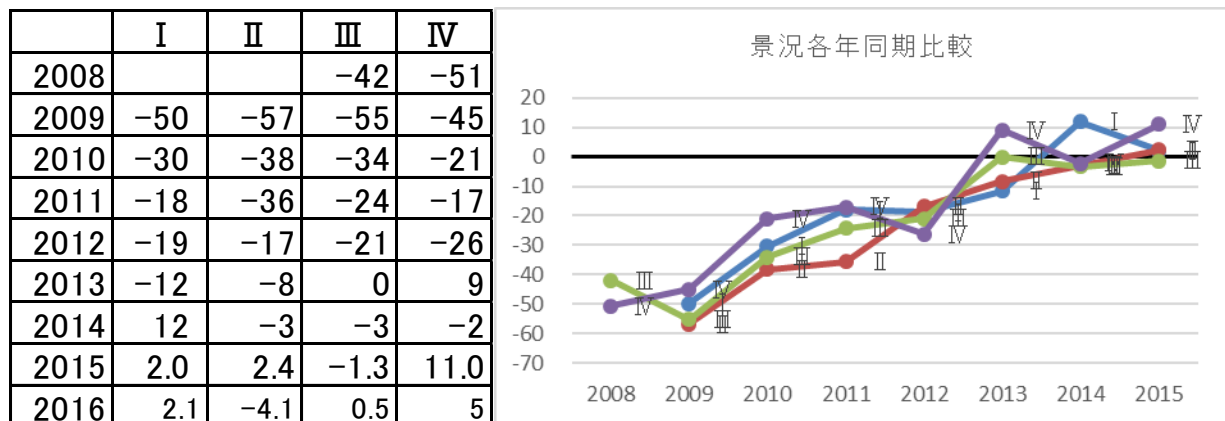
全体の推移



	今回数値	前回からの変動
景況感 DI	5.5	5
売上高 DI	9.5	-3.1
利益 DI	8.0	0.8
新規受注 DI	12.2	-2.9
次期予想 DI	17.2	-8.5

年	月	回	回収数	景況感DI	売上高DI	利益DI	新規受注DI	次期予想	資金繰りDI
2008	Ⅲ	66	628	-42	-22	-35	-21	-29.1	7
	Ⅳ	67	467	-51	-38	-40	-29	-50.9	25
2009	Ⅰ	68	491	-50	-43	-48	-35	-31	0
	Ⅱ	69	421	-57	-45	-45	-26	-19.1	0
	Ⅲ	70	475	-55	-40	-47	-17	-22.9	0
	Ⅳ	71	413	-45	-30	-34	-19	-21.6	-28
2010	Ⅰ	72	432	-30	-18	-24	-7	-15.2	-17
	Ⅱ	73	535	-38	-16	-27	-14	-3	-21
	Ⅲ	74	485	-34	-14	-19	-9	5.2	-18
	Ⅳ	75	426	-21	-5	-12	-2	0.9	-15
2011	Ⅰ	76	349	-18	-3	-19	-4	-24	-28
	Ⅱ	77	398	-36	-16	-23	-19	-8.2	-11
	Ⅲ	78	374	-24	-10	-21	-9	-11	-13
	Ⅳ	79	341	-17	-9	-11	0	-2.7	-10
2012	Ⅰ	80	338	-19	-6	-17	-1	-3	-8
	Ⅱ	81	437	-17	5	-4	-1	4.5	-6
	Ⅲ	82	502	-21	-6	-15	-3	9.4	-15
	Ⅳ	83	357	-26	-9	-19	-10	13.6	-16
2013	Ⅰ	84	420	-12	-3	-9	-3	14.4	-16
	Ⅱ	85	378	-8	2	-7	4	26.9	-8
	Ⅲ	86	284	0	10	-2	11	25.9	1
	Ⅳ	87	290	9	26	13	26	27.3	0
2014	Ⅰ	88	300	12	25	14	13	2.3	0
	Ⅱ	89	319	-3	6	-4	-6	20.3	-6
	Ⅲ	90	294	-3	7	-7	0	15.4	0
	Ⅳ	91	319	-2	13	-3	6	3.5	-1
2015	Ⅰ	92	359	2.0	4.3	1.7	5.5	15.7	-2.0
	Ⅱ	93	298	2.4	7.6	5.8	8.0	22.9	7.4
	Ⅲ	94	386	-1.3	6.7	4.2	11.7	21.5	-2.6
	Ⅳ	95	355	11.0	11.8	8.4	16.4	15.5	3.9
2016	Ⅰ	96	424	2.1	10.0	2.9	1.4	9.8	未調査
	Ⅱ	97	347	-4.1	0	-2.1	4.2	13.5	10.0
	Ⅲ	98	449	0.5	12.6	7.2	15.1	25.7	6.3
	Ⅳ	99	382	5.5	9.5	8	12.2	17.2	5.0

景況感は対前年同期のため、年別比較すると以下の通りとなっている。



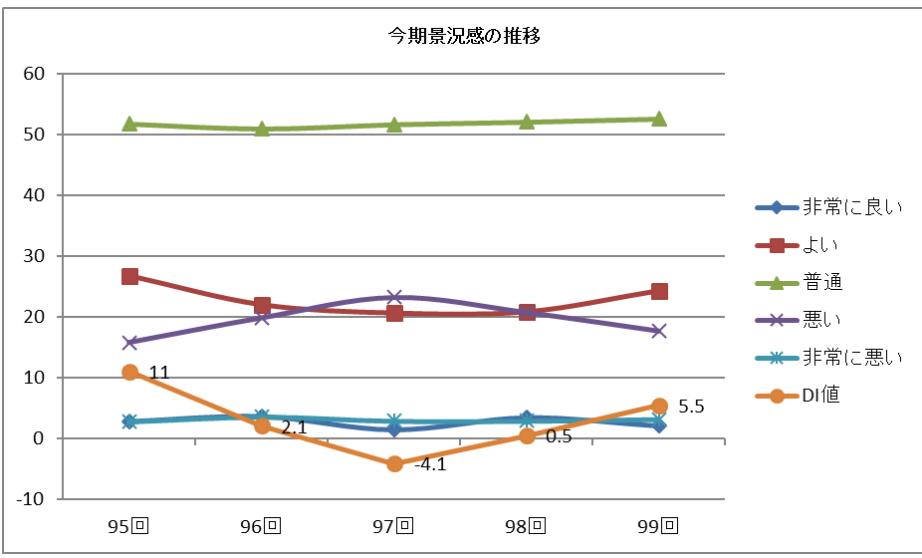
(イ) 各項目の状況

今期景況感 DI

2016 年 10 月～12 月期の貴社の景況判断はいかがでしたか。

前回より DI は改善した。バランス的には前年同期である 95 回と同様である。

5. 今期景況判断		第98回	DI値	0.5	第99回	DI値	5.5	+5.0
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%	増減	
1	非常に良い	15	3.4	24.2	8	2.1	-1.3	+2.2
2	よい	93	20.8		92	24.3	+3.5	
3	普通	233	52.1	52.1	199	52.6	+0.5	
4	悪い	93	20.8	23.7	67	17.7	-3.1	-2.8
5	非常に悪い	13	2.9		12	3.2	+0.3	
	不明	2			4			
	サンプル数(%ベース)	449	447		382	378	-69	



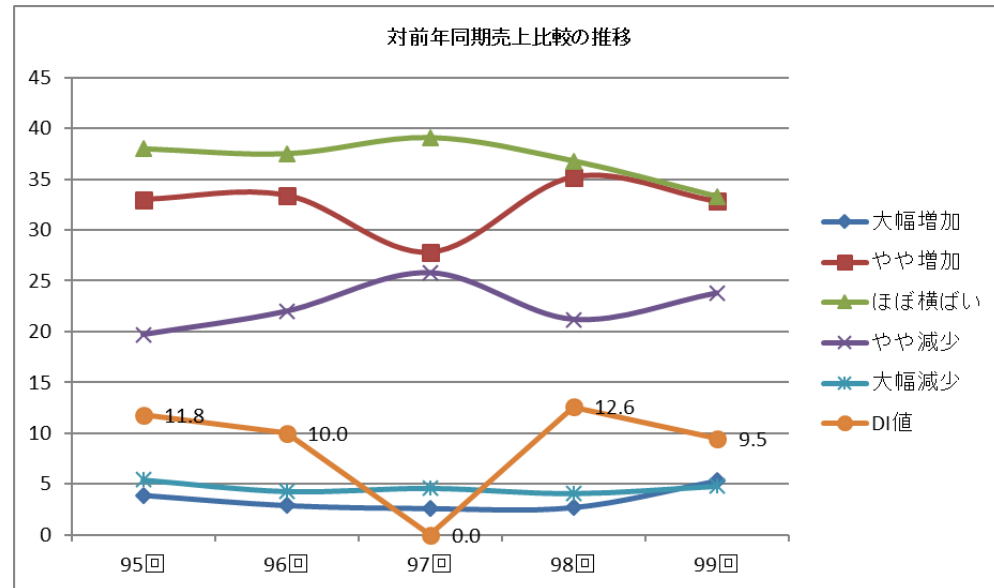
95 回より DI が 5 程度低いが、若干ながらよいが低く、悪いが高くなっている。

売上高 DI

2016 年 10 月～12 月期の貴社の「売上高」について、前年同期(2015 年 10 月～12 月)に比較してお答えください。

二期連続で「ほぼ横ばい」が低下しているが、前回は「やや増加」、今回は「やや減少」が増えている。

6.対前年同期売上高比較				第98回	DI値	12.6	第99回	DI値	9.5	-3.1
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	増減	件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	12	2.7	37.9	25.3	→	20	5.3	+2.6	+0.2
2	やや増加	156	35.2				124	32.8	-2.4	
3	ほぼ横ばい	163	36.8				126	33.3	-3.5	+3.3
4	やや減少	94	21.2				90	23.8	+2.6	
5	大幅減少	18	4.1				18	4.8	+0.7	
	不明	6					4			
	サンプル数(%ベース)	449	443				382	378	-65	

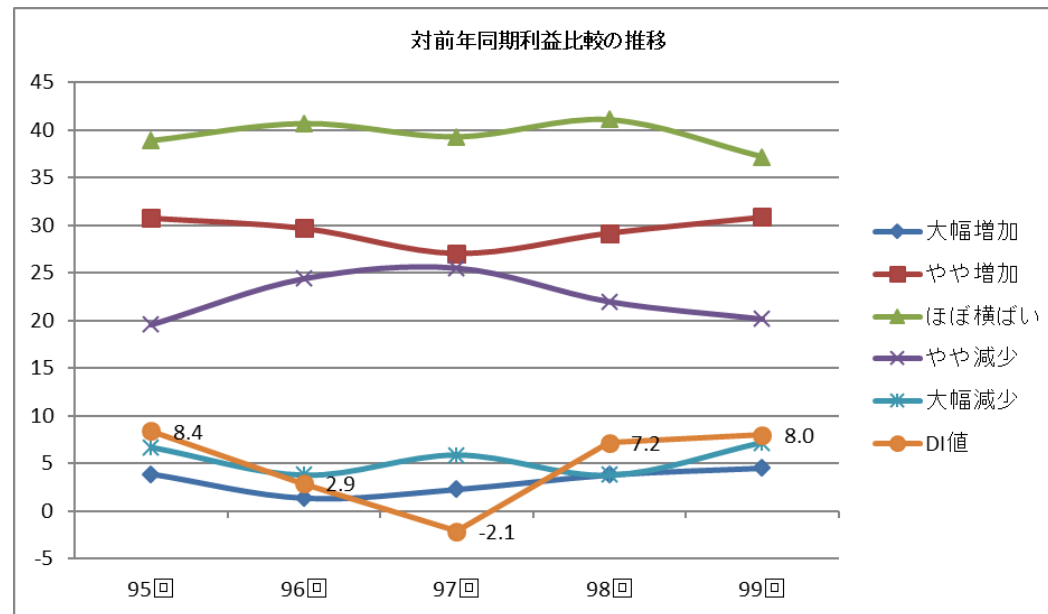


利益 DI

2016 年 10 月～12 月期の貴社の「利益」について、前年同期(2015 年 10 月～12 月)に比較してお答えください。

「ほぼ横ばい」が減って、利益増加側がやや増えた一方、「大幅減少」も増えている。

7.対前年同期利益比較			第98回	DI値	7.2	第99回	DI値	8	+0.8
No.	カテゴリ	件数	(除不)%			件数	(除不)%		増減
1	大幅増加	17	3.8	33		17	4.5	35.4	+0.7
2	やや増加	130	29.2			116	30.9		+1.7
3	ほぼ横ばい	183	41.1	41.1	→	140	37.2	37.2	-3.9
4	やや減少	98	22	25.8		76	20.2	27.4	-1.8
5	大幅減少	17	3.8			27	7.2		+3.4
	不明	4				6			
	サンプル数(%ベース)	449	445			382	376		-69

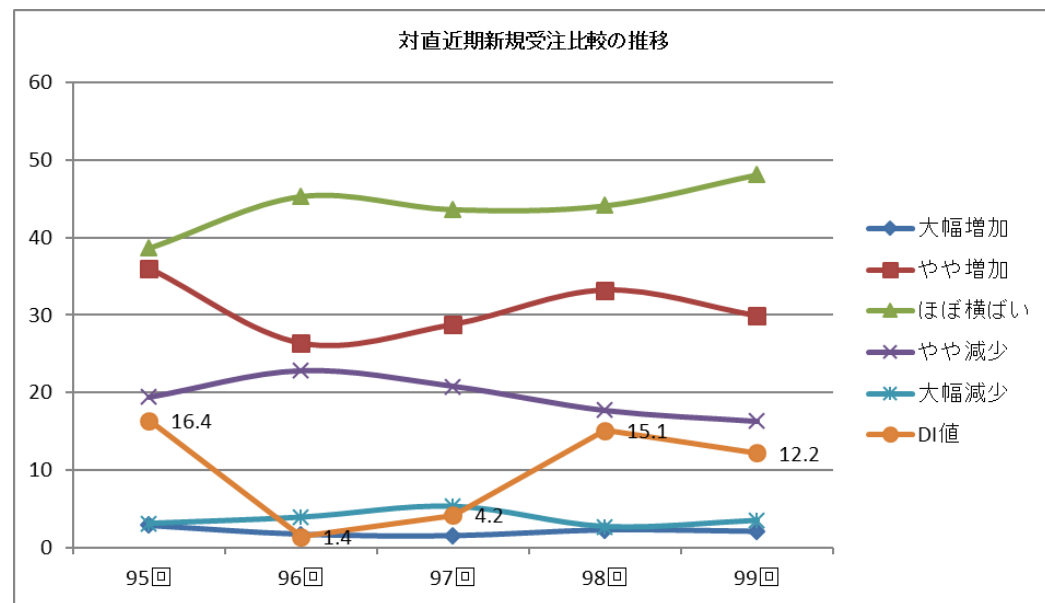


新規受注 DI

2016 年 10 月～12 月期の貴社の「新規受注」について、直近期(2016 年 7 月～9 月)に比較してお答えください。

二期連続増していた「やや増加」が減り、「ほぼ横ばい」が増加したことで DI がやや低下した。「やや減少」は三期連続減であった。

8. 対直近期新規受注比較			第98回	DI値	15.1	第99回	DI値	12.2	-2.9
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%		増減	
1	大幅増加	10	2.3	35.5	8	2.1	32	-0.2	-3.5
2	やや増加	146	33.2		112	29.9		-3.3	
3	ほぼ横ばい	194	44.1	44.1	180	48.1	48.1	+4.0	
4	やや減少	78	17.7	20.4	61	16.3	19.8	-1.4	-0.6
5	大幅減少	12	2.7		13	3.5		+0.8	
	不明	9			8				
	サンプル数(%ベース)	449	440		382	374		-66	

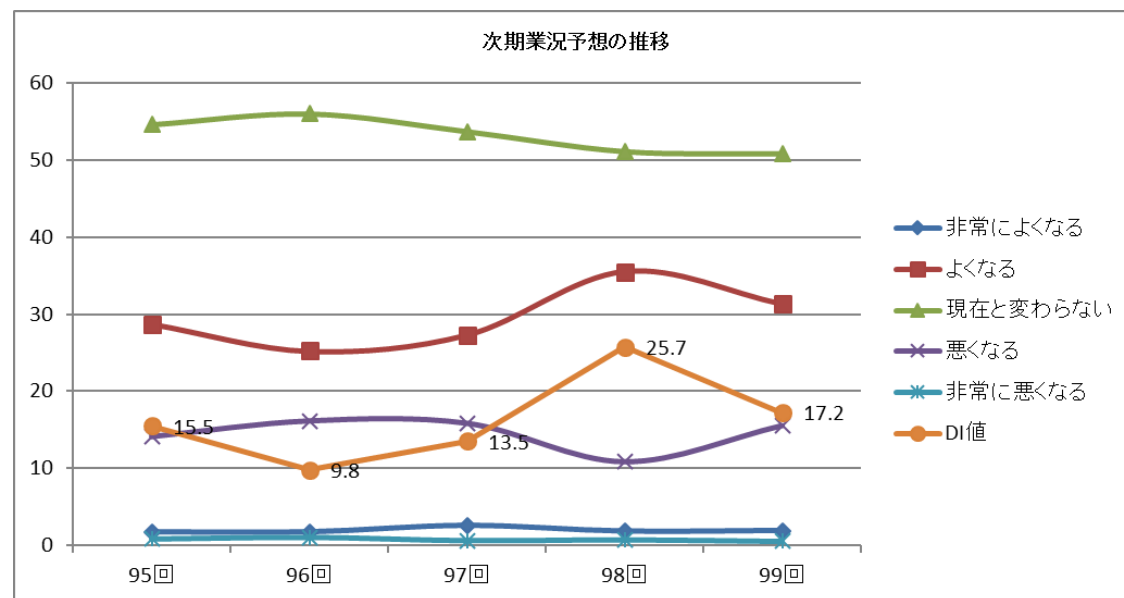


次期予想 DI

2017 年 1 月～3 月期の貴社の業況をどのように予想されていますか。

二期連続増していた「よくなる」が減少、「悪くなる」が増加した。「現在と変わらない」の水準は変化していない。

10.次期業況予想		第98回	DI値	25.7	第99回	DI値	17.2	-8.5
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%		増減
1	非常によくなる	8	1.8	37.3	7	1.9	33.2	+0.1
2	よくなる	156	35.5		117	31.3		-4.2
3	現在と変わらない	225	51.1	51.1	190	50.8	50.8	-0.3
4	悪くなる	48	10.9	11.6	58	15.5	16	+4.6
5	非常に悪くなる	3	0.7		2	0.5		-0.2
	不明	9			8			
	サンプル数(%ベース)	449	440		382	374		-66



3 主要指標のクロス分析

(ア) 景況感別の動向

景況感の良し悪しはその他の指標とどのような関係にあったか

景況が非常に良い企業は売り上げが改善、悪い企業は利益がやや改善していたものの新規受注が悪化していた。次期予想としては多くは前回より悪化予想が増加している。

	第99回	景況件数	景況DI構成比	売上高DI値	利益DI値	新規受注DI値	次期予想DI値	件単位
	有効回答数	378	100%	374	372	370	370	
今 期 景 況 感	非常に良い	8	2.1%(-1.3)	100(14.3)	100(0)	75(-11.7)	50(-36.7)	12.5
	よい	92	24.3%(3.5)	75(-6.3)	72.8(-6.5)	60(-1.1)	45.6(2.1)	1.1
	普通	199	52.6%(0.5)	9.2(-8.1)	5.2(-0.4)	10.2(1.9)	12.2(-9.7)	0.5
	悪い	67	17.7%(-3.1)	-68.7(-2)	-62.7(5.8)	-36.9(-18.2)	-9.1(-21.2)	1.5
	非常に悪い	12	3.2%(0.3)	-83.3(-21.8)	-91.7(-37.8)	-81.8(-35.7)	0(8.3)	8.3

(イ) 業種別の動向

業種別の各指標の状況はどのようなであったか

景況が改善したのは生産財、建築、設備、サービス業、悪化したのは土木であった。ただし生産財や建築は各指標は前回より悪化しているものの、景況感のみ前回より改善となっている。商業・流通業は売り上げも改善したが特に利益が改善している一方、サービス業（対個人）は売り上げの影響が大きい。

	第99回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
	クロス回答数		376(-68)	376(-64)	374(-68)	372(-65)	372(-65)	
	全体	380	5.6(5.4)	9.6(-2.9)	8.3(1.3)	12.1(-2.8)	16.7(-9)	0.3
業 種	製造業(生産財)	24	4.2(10.4)	-4.3(-23.1)	4.2(-11.5)	-4.2(-10.4)	4.3(-21.5)	4.2
	製造業(消費財)	30	-16.7(11.1)	-16.7(-13.9)	-3.3(7.8)	0(-11.1)	13.8(-8.4)	3.3
	建設業(建築)	31	31(16.7)	9.7(-14.7)	0(-9.5)	25.8(-0.4)	20(-20.5)	3.2
	建設業(土木)	12	-16.7(-50)	-58.3(-91.7)	-41.7(-83.3)	-16.7(-58.3)	-16.7(-50)	8.3
	建設業(設備)	26	11.5(11.5)	11.5(31.5)	-3.8(8.2)	3.8(3.8)	19.2(-9.9)	3.8
	商業・流通業	48	0(11.3)	-2.1(3.6)	17(24.7)	-8.7(-10.6)	16.7(-2.9)	2.1
	サービス業(対事業所)	133	12.1(3)	26.5(-2.5)	19.2(2.3)	26.5(2.7)	27.9(-1.3)	0.8
	サービス業(対個人)	76	-1.3(6.2)	12(15.8)	5.4(5.4)	11.1(7.1)	5.3(-8.4)	1.3

(ウ) 従業員規模別の動向

従業員規模の大小は各指標でどのような差が表れたか

21～30 名規模における売上と新規受注の悪化、31～50 名規模の景況感改善、51～100 名規模の新規受注の悪化が目立つ。

	第99回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
	クロス回答数		378(-69)	378(-65)	376(-69)	374(-66)	374(-66)	
	全体	382	5.6(5.1)	9.5(-3.1)	8(0.8)	12.3(-2.7)	17.1(-8.6)	0.3
従業員規模	0名～5名	130	2.4(-0.6)	15.5(6.5)	11.1(1.5)	14.8(2.9)	21.6(-3.7)	0.8
	6名～10名	97	15.5(8.4)	12.6(-6.6)	8.4(-7.1)	19.8(4.1)	12.6(-7.1)	1.0
	11名～20名	57	-1.8(6.2)	5.3(1.3)	3.5(6.2)	7.3(-3.5)	21.4(-13.2)	1.8
	21名～30名	33	-15.2(-9.7)	-18.8(-43.1)	3(-7.8)	0(-41.7)	6.1(-37.2)	3.0
	31名～50名	24	21.7(34.2)	20.8(14.6)	37.5(34.4)	25(6.3)	12.5(6.3)	4.2
	51名～100名	23	8.7(5.2)	0(-10.7)	-21.7(-11.4)	-14.3(-21.4)	17.4(-6.7)	4.3
	100名以上	18	11.1(1.6)	11.1(-27)	5.6(-8.7)	5.9(-4.1)	22.2(2.2)	5.6

(エ) 本社地区別の動向

地区別ではどのような状況であったか

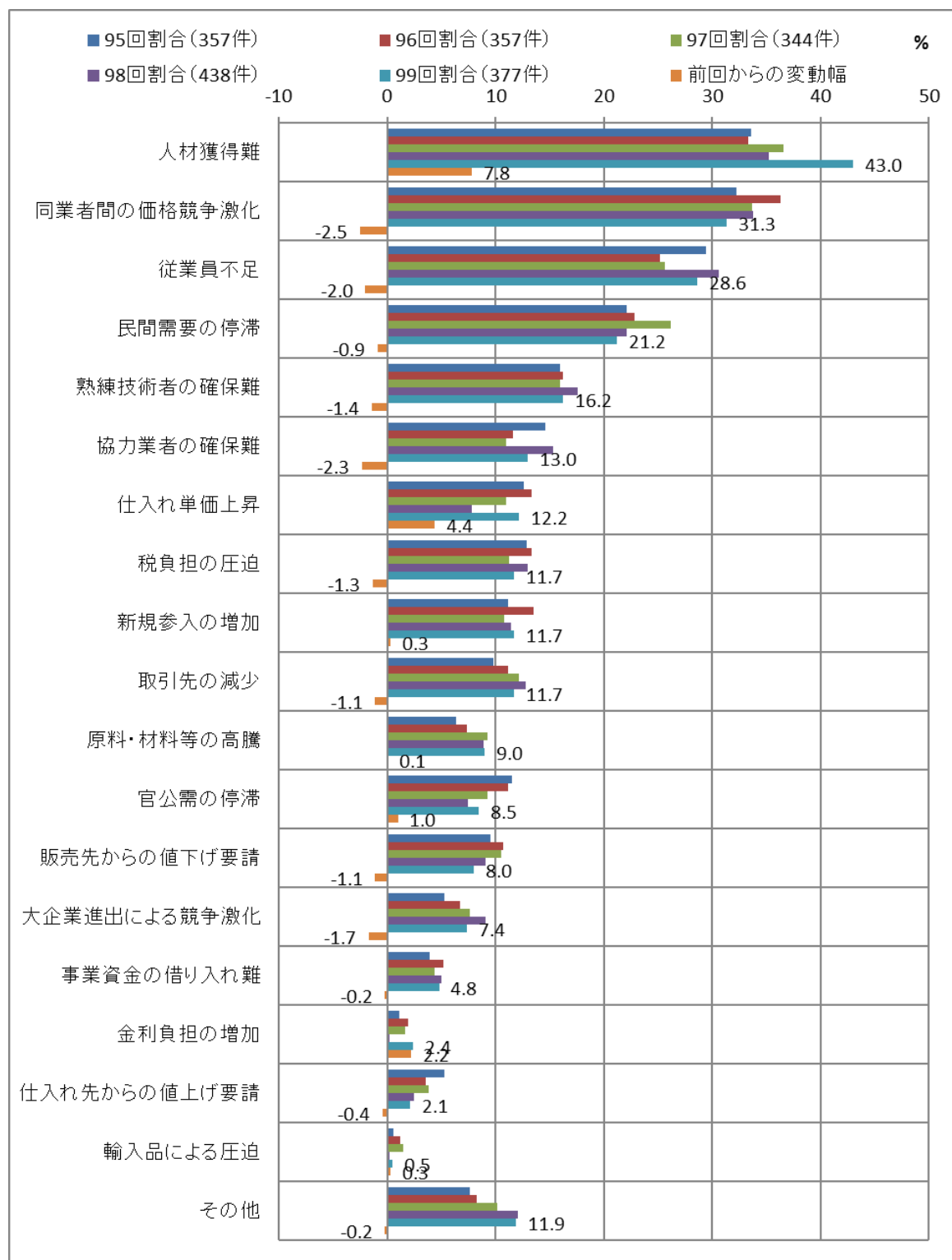
県南（筑後地区）はやや指標が改善しているが、北九州地区の悪化が目立つ。

	第99回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
	クロス回答数		378(-69)	378(-65)	376(-69)	374(-66)	374(-66)	
	全体	382	5.6(5.1)	9.5(-3.1)	8(0.8)	12.3(-2.7)	17.1(-8.6)	0.3
本社地区	福岡地区	282	6.1(5.5)	10.4(-3.8)	7.9(1.8)	16.5(-1.1)	23.6(-5.4)	0.4
	北九州地区	32	-6.3(-14.1)	3.2(-10.3)	-6.7(-17.2)	-17.2(-19.9)	-31.3(-52.9)	3.1
	筑豊地区	35	8.8(14.5)	8.6(0)	8.6(-5.3)	0(-11.1)	22.9(3.4)	2.9
	県南(筑後)地区	24	0(12.1)	0(6.3)	16.7(16.7)	12.5(6)	-17.4(-24.1)	4.2
	福岡県外	9	33.3(10.3)	37.5(6.7)	33.3(10.3)	22.2(6.8)	55.6(40.2)	11.1

4 経営上の問題点

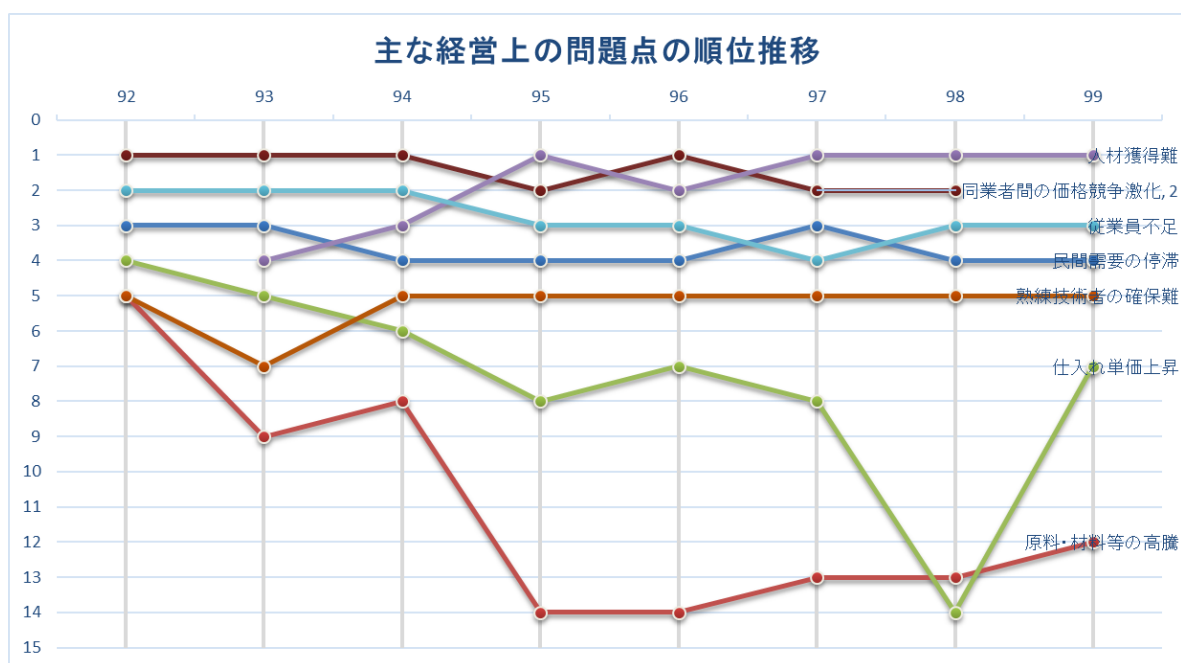
貴社において、現在の経営上の問題点の内、特に厳しいもの上位3項目を選んでご回答ください。

人材獲得難は増加したが従業員不足は低下している。民間需要停滞と価格競争激化は低下した一方、仕入単価上昇が増加している。



(その他の内容)

- 業務の効率化、健康問題 サービス業(対事業所) 0名～5名 福岡地区 普通)
- 将来の見込み、及び計画 サービス業(対事業所) 6名～10名 福岡地区 よい)
- 従業員のスキル サービス業(対事業所) 6名～10名 福岡地区 非常に良い)
- 円安 サービス業(対事業所) 0名～5名 北九州地区 悪い)
- 特になし サービス業(対事業所) 0名～5名 福岡地区 普通)
- 人材育成 サービス業(対個人) 51名～100名 福岡地区 悪い)
- 単価の下落 建設業(土木) 6名～10名 福岡地区 普通)
- 労働力(仕入れ)の減少 サービス業(対事業所) 21名～30名 福岡地区 悪い)



上位項目には前回から変化はないものの、「仕入単価上昇」・「原材料の高騰」の順位が上昇している。

業種別の経営上の問題点									
%	全体	製造業 (生産財)	製造業 (消費財)	建設業 (建築)	建設業 (土木)	建設業 (設備)	商業・流通業	サービス業 (対事業所)	サービス業 (対個人)
回答数	375	24	30	31	12	25	48	131	74
官公需の停滞	8.5	8.3	3.3	6.5	41.7	16	6.3	7.6	6.8
民間需要の停滞	21.3	33.3	40	19.4	25	20	25	15.3	18.9
原料・材料等の高騰	9.1	29.2	30	3.2	-	-	14.6	4.6	5.4
仕入れ単価上昇	12.3	25	30	6.5	8.3	-	25	6.1	10.8
事業資金の借り入れ難	4.8	-	6.7	6.5	-	4	6.3	4.6	5.4
仕入れ先からの値上げ要請	2.1	4.2	3.3	3.2	8.3	-	-	2.3	1.4
税負担の圧迫	11.7	16.7	3.3	6.5	16.7	8	10.4	13	14.9
新規参入の増加	11.7	-	3.3	6.5	8.3	8	8.3	14.5	20.3
同業者間の価格競争激化	31.5	37.5	30	25.8	33.3	24	39.6	26	39.2
金利負担の増加	2.4	4.2	-	3.2	-	4	-	1.5	5.4
取引先の減少	11.7	4.2	16.7	9.7	8.3	8	20.8	10.7	10.8
販売先からの値下げ要請	8	-	13.3	3.2	16.7	12	16.7	6.9	4.1
熟練技術者の確保難	16.3	20.8	20	22.6	16.7	36	4.2	17.6	9.5
協力業者の確保難	13.1	8.3	10	54.8	25	32	2.1	9.9	2.7
輸入品による圧迫	0.5	-	-	-	-	-	2.1	0.8	-
大企業進出による競争激化	7.5	8.3	3.3	-	-	-	18.8	7.6	8.1
人材獲得難	42.9	37.5	26.7	48.4	41.7	56	41.7	43.5	44.6
従業員不足	28.3	20.8	20	35.5	16.7	32	20.8	29.8	33.8
その他	11.7	-	13.3	3.2	16.7	4	12.5	16.8	10.8
各業種別回答数に対するパーセント									
色付きセルは上位五項目									

経営上の問題点を業種別にみると、どの業種においても上位五項目に「人材獲得難」「従業員不足」「価格競争激化」が挙げられている。

「熟練技術者の確保難」は建築、設備、サービス業(対事業所)で五位以内に入っている。

土木では官公需の停滞が上位であった。

5 その他の調査項目

(ア) 資金繰り

12.資金繰り		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	余裕あり	52	 13.6	 13.6
2	やや余裕あり	66	 17.3	 17.3
3	普通	164	 43	 42.9
4	やや窮屈	79	 20.7	 20.7
5	窮屈	20	 5.2	 5.2
	不明	1		0.3
	N (%ベース)	382	381	100

資金繰りは余裕側と窮屈側差分の DI 値が5と、前々回の 10、前回の 6.3 から二期連続低下であった。

(イ) 冬の賞与予定

13.冬の賞与予定		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	従来通り	151	 40.1	 39.5
2	増額支給	51	 13.5	 13.4
3	減額支給	41	 10.9	 10.7
4	今回は支給なし	28	 7.4	 7.3
5	もともと賞与なし	76	 20.2	 19.9
6	まだわからない	30	 8	 7.9
	不明	5		1.3
	N (%ベース)	382	377	100

13.冬の賞与予定		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	従来どおり支給する	147	41.3	41.1
2	増額して支給する	56	15.7	15.6
3	減額するが支給する	39	11	10.9
4	今回は支給しない	35	9.8	9.8
5	もともと賞与はない	69	19.4	19.3
6	まだわからない	10	2.8	2.8
	不明	2		0.6
	サンプル数(%ベース)	358	356	100

6 割以上は支給すると回答しているものの、「まだわからない」という回答が 8%あり、前年同期より増えている。

(左図は 95 回状況)

	14.支給基準	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	2か月以上	36	15.3	14.8
2	1.5～2か月未満	66	28	27.2
3	1～1.5か月	80	33.9	32.9
4	1か月未満	54	22.9	22.2
	不明	7		2.9
	N (%ベース)	243	236	100

支給すると回答した企業の支給する水準を見ると、「1 か月未満」の回答割合が低下、ひいては 1 か月以上が増加しており、全体としては水準が挙がっている。

	14.支給月数	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	2ヶ月以上	10	11.1	4.1
2	1.5～2ヶ月未満	21	23.3	8.7
3	1～1.5ヶ月未満	26	28.9	10.7
4	1ヶ月未満	33	36.7	13.6
	不明	152		62.8
	サンプル数(%ベース)	242	90	100

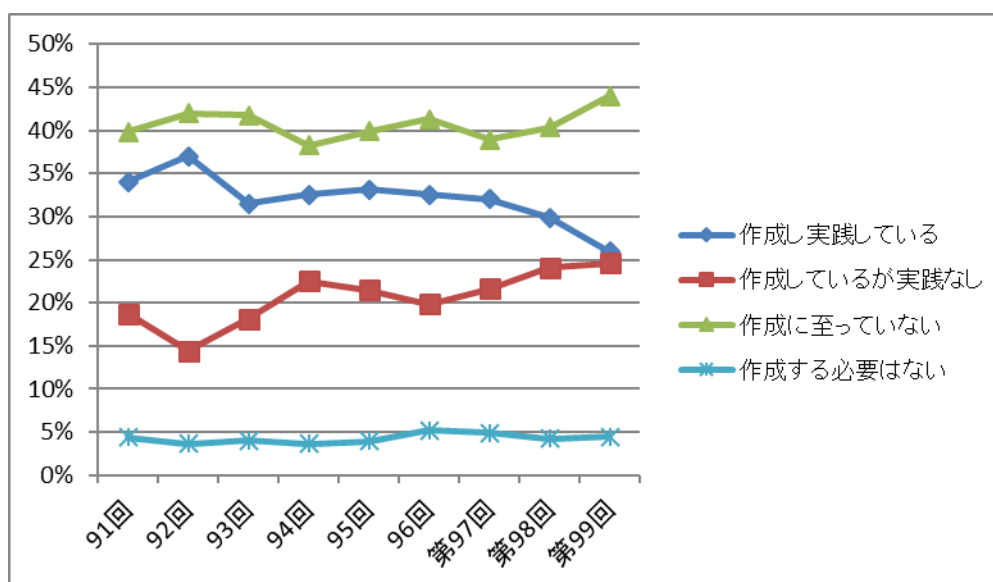
6 経営指針書について

作成の状況

経営指針書を作成していますか。また、指針書に基づいた経営を実践していますか。

作成し実践しているという回答割合がやや低下、作成に至っていないという回答割合がやや増加している。

	経営指針書の作成と実践	第98回		第99回		構成比増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	作成し実践している	134	30.3	99	26.2	-4.1
2	作成しているが実践なし	108	24.4	94	24.9	0.5
3	作成に至っていない	181	41	168	44.4	3.4
4	作成する必要はない	19	4.3	17	4.5	0.2
	不明	7		4		0.0
	サンプル数(%ベース)	449	442	382	378	-64



検証状況

「作成し実践している」と回答された方にお尋ねします。毎月、検証(チェック)していますか。

ほとんどは一定の頻度で検証している。

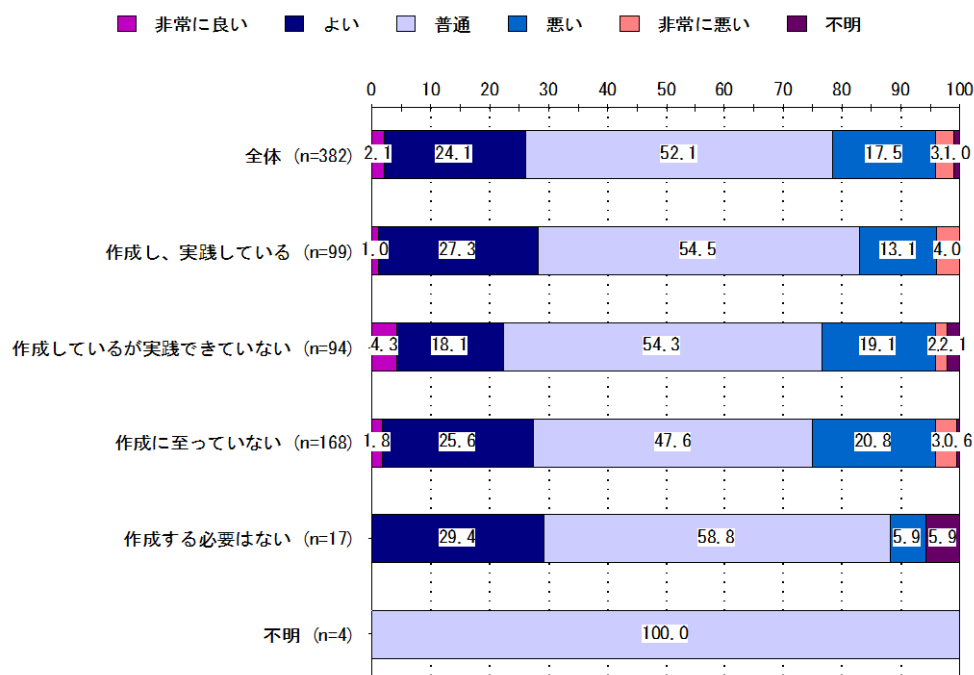
	16.経営指針書の検証について	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	毎月検証している	57	43.5	42.5
2	毎月ではないが検証している	55	42	41
3	年に1回は検証している	17	13	12.7
4	全く検証していない	2	1.5	1.5
	不明	3		2.2
	サンプル数(%ベース)	134	131	100

経営指針書の成果

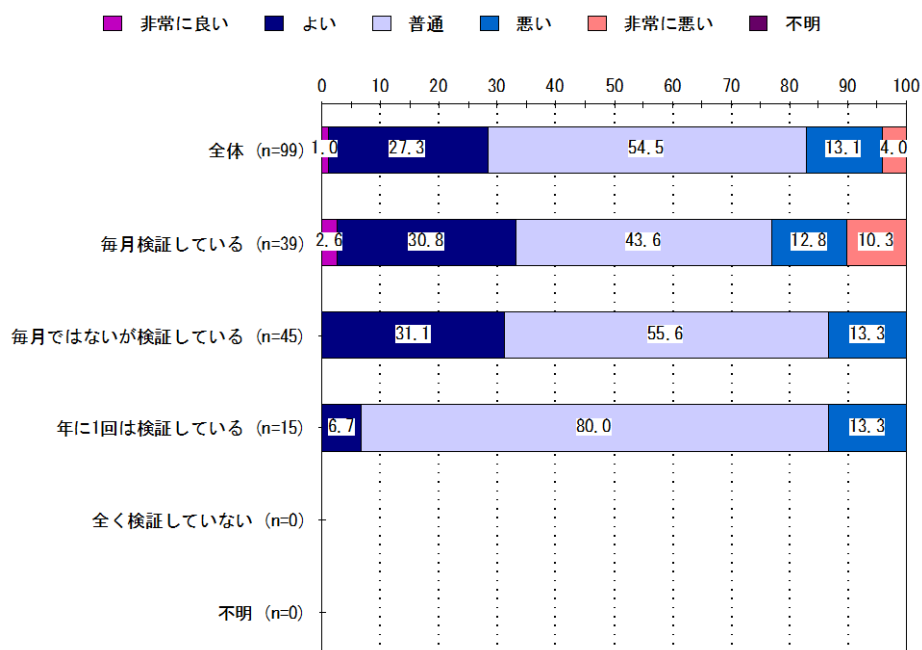
経営指針書の活用は今期景況感の回答にどのように関係しているか

作成自体よりも実践の有無で「悪い」側の差が表れている。一方、チェックについては年一回よりも多い方が「よい」側で差が出ている。

5. 今期景況判断 × 15. 経営指針書について



5. 今期景況判断 × 16. 経営指針書の検証について



7 自由回答項目

(ア) 景況理由

景況理由別に内容を見ると、よい側および普通では市場環境が改善した、努力が実を結んだという意見がみられるものの、人員不足などでさらなる改善に至らなかったような回答が見受けられる。悪い側では市場環境の悪さ、中でも大手との競合や業界の投資、震災や天候など特定の外部要因を挙げる例がみられた。

景況	業種	従業員数	本社	内容
非常に良い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	顧客の増加
非常に良い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	同友会会員による紹介。
非常に良い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	大型案件の成功に伴い、売上利益が大幅に増大した。
非常に良い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	大型案件の受注。
非常に良い	建設業(設備)	31～50	筑豊	昨年の経営環境が悪かったことが理由で、今年が特別に良いとは言えない。
非常に良い	商業・流通業	0～5	福岡	大口が重なり受注したため。
よい	サービス業(対個人)	0～5	筑豊	開業から2年たち、人脈が広がったから。
よい	サービス業(対個人)	0～5	福岡	不動産の流通が増えている。
よい	サービス業(対個人)	0～5	福岡	不明
よい	サービス業(対個人)	0～5	福岡	ネット広告を開始したため。
よい	サービス業(対個人)	0～5	北九	個人投資家の不動産に対する投資意欲の向上による。
よい	サービス業(対個人)	11～20	福岡	IT教育新設。
よい	サービス業(対個人)	11～20	福岡	業界の動向に左右されやすいから。
よい	サービス業(対個人)	21～30	筑豊	新規や売上が伸びているが、人員が不足している。少ない人員で動いているため利益が上がっている。
よい	サービス業(対個人)	21～30	福岡	社員一人ひとりの考え方の変化。
よい	サービス業(対個人)	6～10	北九	市と語内容が個人対応サービスで定員があり、売り上げが上がらない。
よい	サービス業(対事業所)	0～5	筑豊	新規開拓。
よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	半年前からのアプローチが実を結んだため。
よい	サービス業(対事業所)	100以上	福岡	サービス料金の値上げ
よい	サービス業(対事業所)	11～20	筑豊	熊本地震の関係。
よい	サービス業(対事業所)	11～20	福岡	経営計画の実行

よい	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	建設関連は、熊本地震による建設需要の増加、マイナス金利による住宅金利の低下で新築需要の増加等が続いているため
よい	サービス業(対事業所)	31～50	福岡	景気が若干、少しずつ良くなっているのに横ばいだが微増、先が見込める。
よい	サービス業(対事業所)	31～50	福岡	福岡地区の工事(解体工事)の件数が多くなっている。
よい	サービス業(対事業所)	51～100	筑後	本年は上期の方に受注増が集中した。年間売上高は前期並み。
よい	サービス業(対事業所)	51～100	福岡	前期より価格が下がっている
よい	サービス業(対事業所)	6～10	県外	新規が増えた。
よい	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	顧客との関係性強化による。
よい	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	実施設計が完了した
よい	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	企業努力により
よい	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	認知された。PRに力を入れた。
よい	サービス業(対事業所)	6～10	北九	販路拡大
よい	建設業(建築)	0～5	福岡	下請の増加(今まではほとんどが元請だったので)。
よい	建設業(建築)	0～5	北九	継続的に新規事業を行っていく事で仕事量も増加した。
よい	建設業(建築)	100 以上	福岡	不良資産の処理が終わり無借金になったから余裕ができた。仕事の選択が出来るようになった。
よい	建設業(設備)	0～5	福岡	福岡市の安定的(過剰な)な公共事業発注がある。業者不足、人手不足による仕事の依頼が多い。
よい	建設業(設備)	6～10	福岡	某ゼネコン及び、役場からの受注増加に伴い売上の増加を見込む
よい	建設業(設備)	6～10	福岡	受注先の増。
よい	商業・流通業	0～5	福岡	助成金でお客様が購入
よい	商業・流通業	0～5	福岡	HPへの問い合わせが増加した。
よい	商業・流通業	100 以上	福岡	社員の努力。
よい	商業・流通業	11～20	福岡	市場の相場が上がったため
よい	商業・流通業	21～30	福岡	廃業した同業者の営業権を一部買ったため。
よい	商業・流通業	31～50	筑豊	業者間の厭戦気分が芽生えてきた。生き残るため利益追求志向。
よい	商業・流通業	31～50	筑豊	アベノミクス+トランプ期待。
よい	商業・流通業	6～10	福岡	業界の景気の動向に変化が見られないため。
よい	商業・流通業	6～10	福岡	4月に発売した新商品の売れ行きが好調なため
よい	製造業(消費財)	11～20	県外	地道な営業活動及び販売店の協力
よい	製造業(消費財)	21～30	福岡	季節変動による需要増加
よい	製造業(消費財)	51～100	福岡	新規の仕事が増えた。

よい	製造業(生産財)	31～50	福岡	営業体制の強化による。
よい	製造業(生産財)	51～100	福岡	社員の日頃の努力の成果
よい	製造業(生産財)	6～10	筑豊	取引先十数社の景気動向による
よい	製造業(生産財)	6～10	北九	既存の発注先からの受注増と新規受注
よい	製造業(生産財)	6～10	北九	既存客の受注量の増加。
普通	サービス業(対個人)	0～5	筑後	人脈が広がり多くのご紹介を頂いているためと考えております。
普通	サービス業(対個人)	0～5	福岡	契約数は常に一定の為。
普通	サービス業(対個人)	0～5	福岡	新しいサービスを始めたから。
普通	サービス業(対個人)	0～5	福岡	営業活動が思うようにできなかった。
普通	サービス業(対個人)	100 以上	筑後	経費の低減が良かった。
普通	サービス業(対個人)	100 以上	福岡	若者の自動車離れ。自動車販売低迷。
普通	サービス業(対個人)	11～20	福岡	同業他社の競合
普通	サービス業(対個人)	11～20	福岡	季節的に同様状況で推移しています。
普通	サービス業(対個人)	11～20	北九	新規客取得での営業展開の実施(平成28年9月より)。
普通	サービス業(対個人)	21～30	福岡	9 月は、天候の要素が大きかったのですが、全体的に世代が変わって、若い方が、お金を使わなくなってきているようです。団塊の世代が、仕事を離れ、町に出てこなくなっているのではないかと思います。自社の中では、人手不足により、なかなか積極策が打ち出せないのが、課題となっています。
普通	サービス業(対個人)	6～10	福岡	知名度が上がった
普通	サービス業(対個人)	6～10	福岡	9 月に、第 4 クォーターに向けて、営業計画を修正した。販促活動を強化した。
普通	サービス業(対個人)	6～10	福岡	人材不足
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	景気は踊り場
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	臨時の業務委託。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	営業活動の改善
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	昨年末より、新規営業の強化を行ってきた。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	特に変化はない。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	新規営業。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	大きく景気に左右される業種のため。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	昨年が悪かったため
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	新規は良くない。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	顧客の投資意欲の増大(アベノミクス)

普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	同友会会員からの紹介が増えた。8月に初めて作成した経営指針どおりに動いた結果だと思います。
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	新規を増やしていないため
普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	受注増
普通	サービス業(対事業所)	100以上	福岡	顧客の事業の次年度先送りになったため
普通	サービス業(対事業所)	100以上	北九	公共工事の受注減
普通	サービス業(対事業所)	11～20	筑後	景気は今ひとつ明るさはないが、株価の上昇に期待している。
普通	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	値上げをした。
普通	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	営業努力。
普通	サービス業(対事業所)	31～50	福岡	M&Aのため。
普通	サービス業(対事業所)	51～100	福岡	新規取引先の増加
普通	サービス業(対事業所)	51～100	北九	消費低迷。
普通	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	メインの得意先の受注減が新規受注でカバーしきれていない。
普通	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	受注規模が大きくなったが利益減少。
普通	サービス業(対事業所)	6～10	北九	紹介などで仕事の幅が広がったため。
普通	建設業(建築)	0～5	筑豊	物件絶対量の不足、価格破壊
普通	建設業(建築)	11～20	福岡	固定客の仕事
普通	建設業(建築)	11～20	福岡	業界全体が同じような感じだった為。
普通	建設業(建築)	6～10	福岡	閑散期から繁忙期に入ってくるから
普通	建設業(設備)	0～5	福岡	7、忙しすぎてのミス続出
普通	建設業(設備)	11～20	北九	景気が少しずつ悪くなっている傾向が見受けられる。
普通	建設業(設備)	21～30	筑後	企業の設備投資が増えた
普通	建設業(土木)	0～5	福岡	広告の効果。
普通	商業・流通業	0～5	福岡	まだ開業していない。
普通	商業・流通業	11～20	福岡	隣接店(同業)の営業権を多少もらった為。
普通	商業・流通業	21～30	福岡	季節的な要因。
普通	商業・流通業	21～30	福岡	市場の消費が悪い。
普通	商業・流通業	51～100	筑豊	製造業全体の稼動が横ばい。
普通	商業・流通業	6～10	筑後	新規事業のため機械設備への投資が必要だった
普通	商業・流通業	6～10	福岡	新規顧客の獲得。
普通	商業・流通業	6～10	福岡	人の不足

普通	製造業(消費財)	0～5	福岡	建設業の人手不足などで工期遅れなど、例年のような「年末までに」という活況が無い。
普通	製造業(消費財)	11～20	福岡	民需の低減
普通	製造業(消費財)	21～30	福岡	取引先の契約解除にともなう売上減少。
普通	製造業(消費財)	6～10	福岡	取引先の売上減少
普通	製造業(生産財)	11～20	福岡	震災特需、及び恒例のイベント関連での売上が出たこと。
普通	製造業(生産財)	11～20	福岡	前年が悪かった。
普通	製造業(生産財)	21～30	筑後	7月～9月がとても悪かったため。
普通	製造業(生産財)	21～30	筑後	わからない。
普通	製造業(生産財)	31～50	福岡	大口の得意先は安定しているものの、それ以外の一般顧客からの受注が停滞している。但し、薄利分が減少したため増益となった。
普通	製造業(生産財)	51～100	福岡	価格競争の激化。
普通	製造業(生産財)	51～100	北九	競争激化のため受注金額が安い。特に大手メーカーの海外発注が多くなり地場企業の空洞化が目立つ
悪い	サービス業(対個人)	0～5	筑豊	競争相手の存在。
悪い	サービス業(対個人)	0～5	福岡	タイミングかと思います。
悪い	サービス業(対個人)	100 以上	県外	営業人員不足。
悪い	サービス業(対個人)	51～100	筑後	時代の流れ？
悪い	サービス業(対個人)	51～100	福岡	当たり前を勘違いした個人の当たり前の仕事をした結果。
悪い	サービス業(対個人)	6～10	福岡	保険制度が変わりつつある
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	次への準備期間で予想済み
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	既存顧客の取引から新規顧客へスライドしている最中。受注から納品までのタイムラグで売上高の落ち込みに繋がっている。
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	クライアントの景気が良くないことと、価格競争が進んでいるため。
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	営業不足の為
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	受注は増えているが供給システムが追いついていない
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	収入が多少増加したが、変動費の増加で利益はほとんどでなかった。
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	民間減少による。
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	ドメイン変更中。
悪い	サービス業(対事業所)	0～5	北九	営業努力不足
悪い	サービス業(対事業所)	100 以上	筑後	受注件数と単価の低下
悪い	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	人材派遣業であるが、働き手の確保が困難であった。

悪い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	積極的な営業をしていなかった
悪い	建設業(建築)	0～5	福岡	新規営業をしていない。
悪い	建設業(建築)	11～20	福岡	景気の先が見えないのでオーナーが敬遠している
悪い	建設業(設備)	0～5	福岡	受注予定の物件が受注出来なかった為
悪い	建設業(設備)	0～5	北九	一般消費者の住宅リフォーム意欲が停滞していると思われます。
悪い	建設業(設備)	100以上	福岡	市況の低迷。
悪い	建設業(設備)	6～10	福岡	建設現場着工の遅れ
悪い	建設業(土木)	11～20	福岡	得意先、仕事量の低下。人件費の高騰。
悪い	建設業(土木)	21～30	北九	役所の受注の減少。
悪い	商業・流通業	0～5	福岡	暖かかったからかな・・・
悪い	商業・流通業	11～20	福岡	新たな組織の展開がまだ出来上がってないと思う。予想よりも進歩が遅い。人材の教育を見直している最中。
悪い	商業・流通業	11～20	北九	設備投資の低迷。
悪い	商業・流通業	31～50	福岡	売上減少。
悪い	商業・流通業	6～10	福岡	主要な得意先自体が伸び悩み(今年は全国各地で台風被害に遭いその影響が大きい。)新規開拓による実績が伸び悩み。
悪い	製造業(消費財)	0～5	福岡	デフレで物の値段が下がっている大手企業が半額くらいで持っていく。
悪い	製造業(消費財)	0～5	福岡	外注が大幅に減り、社内で生産が増えたため。
悪い	製造業(消費財)	11～20	福岡	丁度前年と変わらない新規受注の増減数の為。
悪い	製造業(消費財)	11～20	福岡	原材料の高止まり(価格面において)。
悪い	製造業(消費財)	21～30	福岡	例年受注の大きい顧客からの受注減。
悪い	製造業(消費財)	51～100	県外	主な取引先からの受注減
悪い	製造業(消費財)	51～100	福岡	台風等、天災による材料費の高騰。
悪い	製造業(消費財)	6～10	筑後	熊本の震災、天候不順等
悪い	製造業(生産財)	31～50	福岡	景気が低迷し、アベノミクス効果がまったくといって良いほど出ていない。もう少し公共事業へ廻る予算確保が欲しい。
悪い	製造業(生産財)	6～10	福岡	顧客売上げ減少のため。
悪い	製造業(生産財)	6～10	福岡	受注減。
非常に悪い	サービス業(対個人)	11～20	北九	営業が出来ておりません
非常に悪い	サービス業(対事業所)	0～5	筑豊	気象状況

非常に悪い	サービス業(対事業所)	11～20	福岡	熊本震災の影響。
非常に悪い	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	同業大手の価格戦略に巻き込まれている。
非常に悪い	サービス業(対事業所)	6～10	北九	客先の減少、公共事業の発注の減少
非常に悪い	製造業(生産財)	31～50	福岡	設備投資が減少している。
-	建設業(建築)	0～5	福岡	営業不足
-	商業・流通業	0～5	福岡	気温のが暖かく、冬商材の動きが鈍いため